



早期発見が重要 緑内障りょくくないしょう

緑内障は、カメラの役目をしている眼球とその情報を受け取る脳をつなぐ視神経の異常によって、視野が欠けたり、視力が落ちたりする病気です。

原因は、眼圧が正常値(10~21mmHg)より高くなることで視神経に障害が起こるタイプがよく知られていますが、その他にも多くの病型があり、とくに正常の眼圧でも視神経に障害が生じる正常眼圧緑内障が日本人に多いと言われています。正常の眼圧でなぜ視神経に障害が生じるのかは、視神経に栄養を送る血液の量や眼球が納まっている骨(眼窩、視神経周囲の圧力が関係しているなどの仮説がありますが、はつきりしていません。

緑内障は視神経が傷む病気ですが、今の医学では視神経を再生する技術がないため、治療により視機能を改善させることはできません。緑内障の治療の目的は、進行を遅らせることにより生涯必要な視機能を維持するところにあり

ます。ただ、多くは自覚症状に乏しく、自分で見えにくいと気がついたときにはかなり進んでいる状態にあるため、健康診断などによる早期発見が重要です。健診を受ける際にはぜひ眼科の健診も受けることをお勧めします。

視神経が障害されると、眼球内の視神経乳頭と呼ばれる視神経の出入り口に相当する部分が陥凹し、徐々に拡がってきます。生まれつきこの陥凹が大きい人もいますが、緑内障が隠れていることがあります。健康診断などで視神経乳頭陥凹拡大と指摘されたら、眼科で視野検査などを受けましょう。

また、緑内障の発症には遺伝的な要因も知られています。血縁者に緑内障の人が一人いる場合の発症率は2倍、二人以上いる場合は4倍以上になることが知られています。